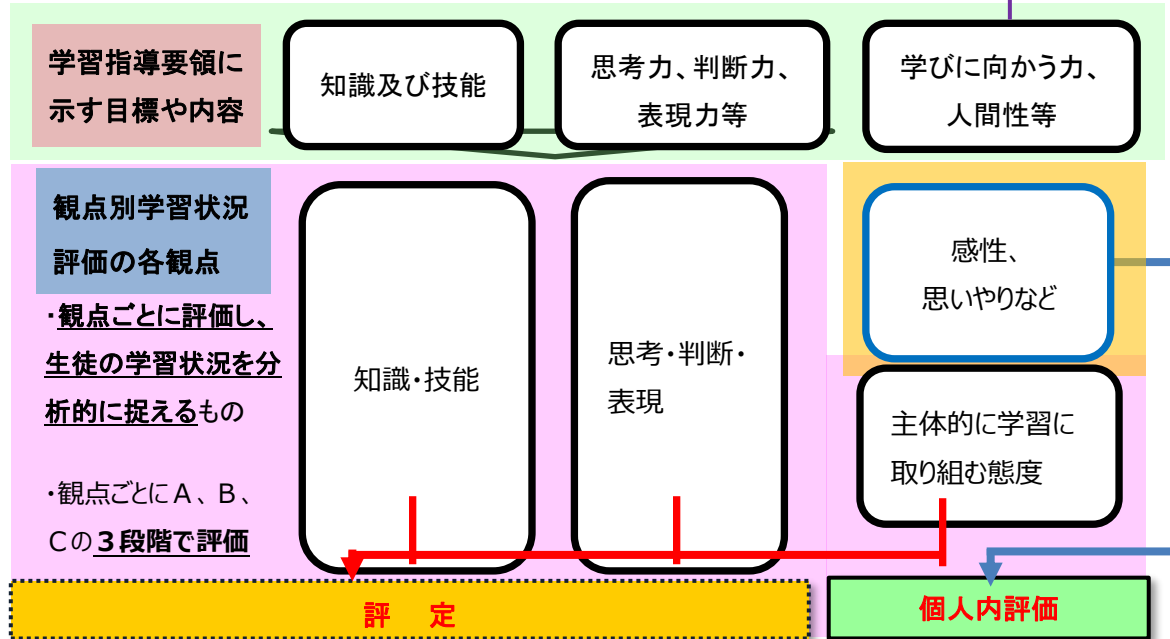


中学校でも、
『目標に準拠した評価』を行っています。

学習指導要領に示されている各教科の目標に対して、どこまで到達できたのかを各自の学習状況により評価する方法です。まず、目標への到達度を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から判断します。

◆ 評価の基本構造

「学びに向かう力、人間性等」には
①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
②「感性や思いやり」など観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。



・観点別学習状況の評価の結果を総括するもの。
・5段階で評価。

・観点別学習状況の評価や評定には示しきれない生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの。

◆ 評価の流れ

① 学習過程の評価

・提出物（ノート、ワークシート、実験記録、レポート等）、作文、小テスト、作品や実技、発言・発表・観察等の評価資料を、次の3段階で評価します。
「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」

② 学習過程の評価を、学習のまとめ(単元など)ごとに総括*します

*「総括」とは…複数の評価をまとめて、一つの評価を求めること

③ 学期末・学年末に、「単元ごとの評価」やテストの結果などを総括し、「観点別評価」および「評定」を出します

- ・「観点別評価」は、A・B・Cの3段階となります。
- ・「評定」は、観点別評価を総合的に判断し、5段階で求めます。
 - 5 … 十分満足できるもののうち、特に程度が高い
 - 4 … 十分満足できる
 - 3 … おおむね満足できる
 - 2 … 努力を要する
 - 1 … 一層努力を要する



参考：大阪府公立高校入試での取り扱い

- (1) 対象学年は、第1学年から第3学年まで3年間(5段階評価)
- | | |
|------------------------------|----------------|
| 学力検査 5教科 | 90点 × 5 = 450点 |
| ①大阪府公立高校の調査書の評定に使う場合の計算式 | |
| 評定の比率は1年：2年：3年 = 1：1：3の割合になる | |
| (1年の各教科評定) × 2倍 | 満点は90点 |
| (2年の各教科評定) × 2倍 | 満点は90点 |
| (3年の各教科評定) × 6倍 | 満点は270点 |
| + | 合計450点 |
- ②各学年の「評定の平均」は府チャレンジテストの学校平均正答率と府平均の正答率とを比較して目安となる平均値を算出していきます。
- ③学力検査の成績(入試の点数)と調査書の「評定」の比率は、5つのパターン(「3:7」「4:6」「5:5」「6:4」「7:3」)から各高等学校が選択
- (2) 評定の方法は、「目標に準拠した評価(絶対評価)」
- ・学習指導要領に定められた、各教科の「目標」の実現状況に応じて評価

資料：『観点別評価』の具体的な算出方法(一例)

一つの例として、絶対評価により「観点別評価」を求める具体的方法を以下に示します。

① 学習過程の評価

学習過程（日々の授業）で、提出物・発表などの評価資料を3段階(A~C)で評価します。

		単元 1			
観点/日付 評価資料 ⇒		4/13 発表・ノート	4/15 実技テスト	4/16 小テスト	4/18 発表・レポート
1組 1番	知識・技能		A	B	
	思考・判断・表現	B		C	B
	主体的に学習に取り組む態度	A			A

※ 授業内容によって見取る観点は異なります。

② 学習過程の評価を、学習のまとめ(単元など)ごとに総括します

学習過程の評価を総括し、「単元1」の評価を求めます。

		単元 1					
観点/日付		4/13	4/15	4/16	4/18	単元 1	
1組 1番	知識・技能		A	B		⇒ (3 + 2) ÷ 2 = 2.5 ⇒	B
	思考・判断・表現	B		C	B	⇒ (2 + 1 + 2) ÷ 3 = 1.6... ⇒	B
	主体的に学習に取り組む態度	A			A	⇒ (3 + 3) ÷ 2 = 3.0 ⇒	A

A=3、B=2、C=1 と得点化し、
平均値を求めます。

【総括の基準】

- A : (平均値) > 2.5
- B : 1.5 ≤ (平均値) ≤ 2.5
- C : (平均値) < 1.5

③ 学期末・学年末に、「単元ごとの評価」やテストの結果などを総括して、「観点別評価」を出します

「単元」など学習のまとめりごとの評価に、中間・期末テストの結果を加味して、学期末の「観点別評価」を求める方法は、次のようになります。

(1) 単元1・2、中間・期末テストの評価例

観点	単元1	中間テスト	単元2	期末テスト
知識・技能	B	A	A	A
思考・判断・表現	B	B	C	C
主体的に学習に取り組む態度	A	B	B	A

(2) ABC を得点化します

観点	単元1	中間テスト	単元2	期末テスト
知識・技能	2	3	3	3
思考・判断・表現	2	2	1	1
主体的に学習に取り組む態度	3	2	2	3

(3) 観点ごとの平均値を求めます。(この例では、単元1・2の得点は1倍、テストの得点は2倍にして平均値を求めています。)

観点		単元1	中間テスト	単元2	期末テスト	合計	平均値
知識・技能	得点	2×①	3×②	3×①	3×②	17	17÷⑥ = 2.8...
	重み	①	②	①	②	⑥	
思考・判断・表現	得点	2×①	2×②	1×①	1×②	9	9÷⑥ = 1.5
	重み	①	②	①	②	⑥	
主体的に学習に取り組む態度	得点	3×①	2×②	2×①	3×②	15	15÷⑥ = 2.5
	重み	①	②	①	②	⑥	

(4) 基準に従い、平均値から「観点別評価」を求めます。

観点	平均値	観点別評価
知識・技能	2.8...	A
思考・判断・表現	1.5	B
主体的に学習に取り組む態度	2.5	B

⑥は、単元1・中間テスト・単元2・期末テストの「重み」を足した数値です。
(①+②+①+② = ⑥)

